

災害ボランティアニュース No.1

2014. 2. 23 日本共産党埼玉北部地区委員会

★ボランティア参加者からの現地報告

2月23日(日)秩父社会福祉協議会のボランティアに参加したKさん。「人手がまだまだ足りない」と参加しての感想を語ります。

★県内各地からのボランティア参加

秩父社会福祉協議会はボランティアセンターを2月18日(火)に開設し、雪かきが困難なお家の手伝い、先週から再開した学校の通学路の雪かきなどをしてきました。県内各地からボランティアが集まっています。北本市から参加したKさんは鴻巣・大宮・熊谷・深谷の参加者と、下吉田の個人宅、秩父第一小学校の通学路の除雪作業をしました。

「主要な道路は除雪車両がガンガン片づけた。しかし、どけた雪が歩道に積まれ、みんな車道を歩いています。先週から学校も始まったところもあり、すごく危険です」と話す社協の職員さんは、車で現地へ向かう途中、雪の重みで壊れたビニールハウスを指差し「ここでイチゴ狩りしたんですよ。今年はできそうもないです」と話してくれました。

★一人じゃとても難しい

下吉田では木造住宅のお家の雪かきをしました。一人暮らしの男性(70代)は「(家の)裏の雪をどかしてプロパンガスへの通り道を作ってほしい」とのことでした。男5人がかりで50cmぐらいの高さの雪を10m掘り進むのに1時間かかります。軽い雪の上に水分を重く含んだ雪の層があり、その雪が重くて手を焼きます。「秩父は県内でも1・2を争う高齢者率が高いところ。一人暮らしの方も多く、雪かきを一人でするのが困難な方は多い」と社協の職員さんから話を聞きました。



★人手が足りるのか心配

ボランティア参加した柿沼さんは「雪かきは重労働。昨日、今日と土日だったから参加者が多かったけど、平日の参加が心配。社協の職員さんは『社協の職員は14人、ボランティアの人手も足りないですが、受け入れるこちらでも人手不足です』と話していた。ただでさえ広い秩父。どちらの人数も求められていると思った」と感想を語ります。

秩父第一小学校の通学路の除雪作業を終え、休日出勤している先生と話すと「これなら明日私たちだけでもやりきって子ども達を迎えられます。ありがとうございました」各地からのボランティアが求められています。